

令和 6年度 綾瀬市立 早園小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標	よく考える子(知) 心豊かな子(徳) 健康な子(体) 最後までがんばる子(意)
学校経営方針 (グランドデザイン)	令和6年度 綾瀬市立早園小学校グランドデザイン
今年度の重点目標	勇気を出してまず一歩 互いに認め合う早園っ子

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童、保護者ともに肯定的な回答が多く見られます。昨年度より児童が進んで取り組んでいると回答している児童が増えたので、今後も授業づくりの研究を続けていきます。しかし、「あまり思わない」「そう思わない」と感じている保護者が22%いるので、保護者にも学校での取組が伝わる方法を検討します。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	昨年度同様、児童、保護者ともに肯定的な回答が多く見られます。運動会や遠足において、児童の発達段階に応じたためてを明確に伝え、児童が主体的に取り組んでいくことができるように指導していきます。また、縦割り活動（キラキラタイム）では、児童同士のつながりが深まっている姿が見られるので、今後も計画・実施していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「心豊かな子」を育てる指導を積極的に行っている。	児童も保護者も「友達と仲良くしている」という肯定的な回答が多く見られます。しかし、昨年度より児童・保護者の肯定的な意見が少なくなっています。再度、全ての教育活動を通して見直し、思いやりの心と規範意識を大切にした指導を行い、自分を大切にすることはもちろん、相手のことを思いやることのできる「心豊かな子」の育成に全教職員で努めていきます。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	8割強の児童が学校が楽しいと回答し、学校生活に満足していると思われます。しかし、否定的な回答をした児童が昨年度同様の12%いる。今後さらにより注意深く一人ひとりの児童を見守り、学習面・生活面ともに満足できる生活が送れるように、毎日の児童の変化に敏感に感じられるよう全教職員が連携して取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	昨年度、保護者の肯定的な意見が増えたが、今年度は一昨年と同様にもどってしまった。教職員は肯定的な意見が増えているので、保護者に認知されるための取組を学校として考えていきます。
6 保健管理	学校は、「健康な子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	教師が積極的に取り組むことで、健康に気をつけていると回答した児童が昨年度と同様、多くいました。今後も自分の身体を自らが守ることの大切さを意識させていこうと思います。また、年3回の「生活リズム大作戦」の取組を継続し、家庭と連携し生活の基盤となる「規則正しい生活習慣」の定着に向けて努めていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員は児童に対して積極的に指導をしていることが伺えます。今後も日常の安全指導とともに避難訓練、交通安全教室、不審者待避訓練など安全教育の充実を図ります。また、学校の施設点検・整備については今後も定期的に行う安全点検を行うだけでなく、日頃からの登下校時の歩き方やマナーについて注意を払い、共通理解のもと児童の安全に努めていきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	肯定的な意見が多いのですが、保護者の願いや児童支援の方法が多様化することで児童一人ひとりに合わせた指導の難しさがあり、「ややそう思う」と回答する割合が5割弱であると考えられます。今後も、児童指導委員会、ケース会議等で必要な支援を検討したり、職員会議後で情報交換の時間を設けたりして組織的な支援を引き続きしていきます。また、担任だけでなく、学年、教育相談コーディネーターや特別支援学級担任、養護教諭など学校全体で支援することをより一層深めていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	肯定的な意見が多くあるのは、それぞれの所掌の役割が明確で、業務が進んでいることが読み取れます。学校教育目標の具現化のためカリキュラムマネジメント会議など全教職員で共通理解を図り、学校運営を進めていきます。今後も各総括教諭を中心としたグループですが、人数が少ないため一人ひとりが自覚をもっている結果なので、引き続き取り組んでいきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	「学び方を身に付けた子」を目指した授業改善やミニ研修で様々な指導法や実技を体験し、意見交換しています。また、他学年と情報交換を行ったり、カリキュラムマネジメント会議を行ったりしています。これらのことから9割以上の教員が肯定的に捉えていることが伺えます。今後も授業改善やミニ研修など様々な取組を継続・充実させて授業改善に取り組みます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	教職員、保護者から肯定的な意見が多く見られました。その中でも「そう思う」と回答した教職員が増えたことが伺えます。今後も、全職員で児童の成長を常に意識していこうと思います。しかし、保護者の「あまり思わない」「思わない」「分からない」という意見は昨年度同様、少なくないので、保護者に伝わる方法を考えていこうと思います。そして、地域や保護者からの声を真摯に受け止め、教育活動に反映させていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	毎年保護者の肯定的な意見が9割となっています。しかし、今後も家庭や地域に学校の教育目標、重点目標など目指す児童の姿について積極的に発信していく必要があると考えます。学校行事や地域の活動の場を中心に連携を深め、「児童のよりよい教育活動」をテーマに学校と地域と保護者が同じ方向を向けるように連携を図っていきます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

- ・学校での取り組みを、保護者に伝える手立ての工夫が必要。
- ・保護者と学校とを第三者的につなぐ専門的な立場の人員がいるとよい。
- ・コミスクが始まって数年たち、課題が見えてきている。全校の委員が集まって情報共有をしたり、要望を伝えたりする場があると、市全体のコミスクの質の向上につながる。